



開港5都市  
景観まちづくり会議

11月29日~12月1日

# 開港と都市

景観まちづくり会議

神戸大会  
2025

HAKODATE  
NIIGATA  
YOKOHAMA  
KOBE  
NAGASAKI

してきたコト、  
これからするコト

開催  
記録

MISHIMA  
AKIHIRO



1993年の第1回神戸大会から始まった本会議は、今回で31回目を迎えました。これまで歩みを重ねてこられました関係者の皆様に、改めて深く敬意を表します。

昨年の横浜大会では、5都市より67団体が参加し、多くの学びと交流が生まれました。その流れを受け、本大会では5都市がこれまで「してきたコト」を振り返るとともに、前回テーマ「みらいへの架け橋」を継承し、より具体的な「これからするコト」について活発な議論と意見交換が行われました。各都市の実践や課題、そして未来への展望が共有され、次なる一步につながる有意義な場となりました。

開港以来、5都市は外国文化をいち早く取り入れ、それぞれ独自の景観とまちの個性を育ててきました。先人たちが築いたこの貴重な資産を、未来の輝きへとつなげていくためには、市民と行政が一体となった継続的な取り組みが不可欠です。本大会を通じ、その認識を改めて共有できたことは大きな成果であると感じております。

また、阪神・淡路大震災の際には、4都市の皆様より多大なるご支援を賜りました。本大会が、震災から30年を経て力強く歩み続ける神戸の姿をご覧いただき、都市間の絆をさらに深める機会となりましたことを心より嬉しく思います。

本大会開催にあたりご尽力いただきましたすべての皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後も5都市の連携と交流が一層発展していくことを願い、開催報告のごあいさつといたします。

開港5都市景観まちづくり会議

2025神戸大会実行委員会 会長 曹 英生

## INDEX

全体会議 I	1	行政会議、代表者会議	22
ウェルカムパーティー	6	全体会議 II	23
分科会 1	8	Photo Album	24
分科会 2	10	大会宣言	26
分科会 3	12	参加者アンケート	27
分科会 4	14	開港5都市景観まちづくり 会議沿革、規約	28
分科会 5	16	各都市参加団体一覧、 メインビジュアルコンセプト	29
オプション企画	18		
FG企画後編	19		
トラベラーズシール一覧	20		

# 全体会議 I

〔日 時〕 2025年11月29日（土）14：00～17：00（13：30受付開始）

〔会 場〕 Stage Felissimo Hall（ステージ フェリシモ ホール）

〔参加者〕 137人



## ●主催者代表挨拶



開港5都市景観まちづくり会議  
神戸大会実行委員会  
会長 **曹 英生**

今回の大会のメインテーマは「してきたコト、これからするコト」であると述べ、昨年の横浜大会における「未来の懸け橋につなぐ」という趣旨をさらに具体化し、「新たに実行する」という意味を込めたものであると説明しました。

また、「これからするコト」は本来漢字で表記すべき言葉であるものの、今回はあえてカタカナで表記したことについて、市民一人ひとりがコツコツと、小さなことでも「やれることを続けていく」という思いを込めたものであると述べました。

さらに、そのような考えのもと、今回の大会では参加者から幅広く意見を伺いたいと述べるとともに、次回のFG会議も予定していることから、率直な意見を寄せいただきたい旨を伝えました。あわせて、シンポジウム登壇者への質問も呼びかけました。

加えて、3日間という期間は短いようで長く、長いようで短いものであるとしつつ、震災30年を経て蘇った神戸を存分に楽しんでいただきたいと述べ、挨拶を締めくくりました。

## ●開催都市挨拶



神戸市  
副市長 **小松 恵一**

本日は「開港5都市 景観まちづくり会議2025神戸大会」の開催にあたり、函館・新潟・横浜・長崎の皆様を迎えることができることへの歓迎の意が述べられました。

また、本会議は1993年に始まり、各都市の先進的な取組を共有し、実践へとつなげてきた歴史ある会議であると説明しました。

さらに、2025年は阪神・淡路大震災から30年の節目に当たることに触れ、神戸は復興の歩みを礎として、都心・ウォーターフロント、既成市街地・ニュータウン、森林・里山の再生を柱とした新たなまちづくりを進めていると述べました。

そのうえで、本大会が今後の取組につながる有意義な3日間となることへの期待を示し、挨拶を締めくくりました。

# 全体会議 I

## ● 基調講演①

株式会社フェリシモ 新事業開発本部 取締役 小池 弘之

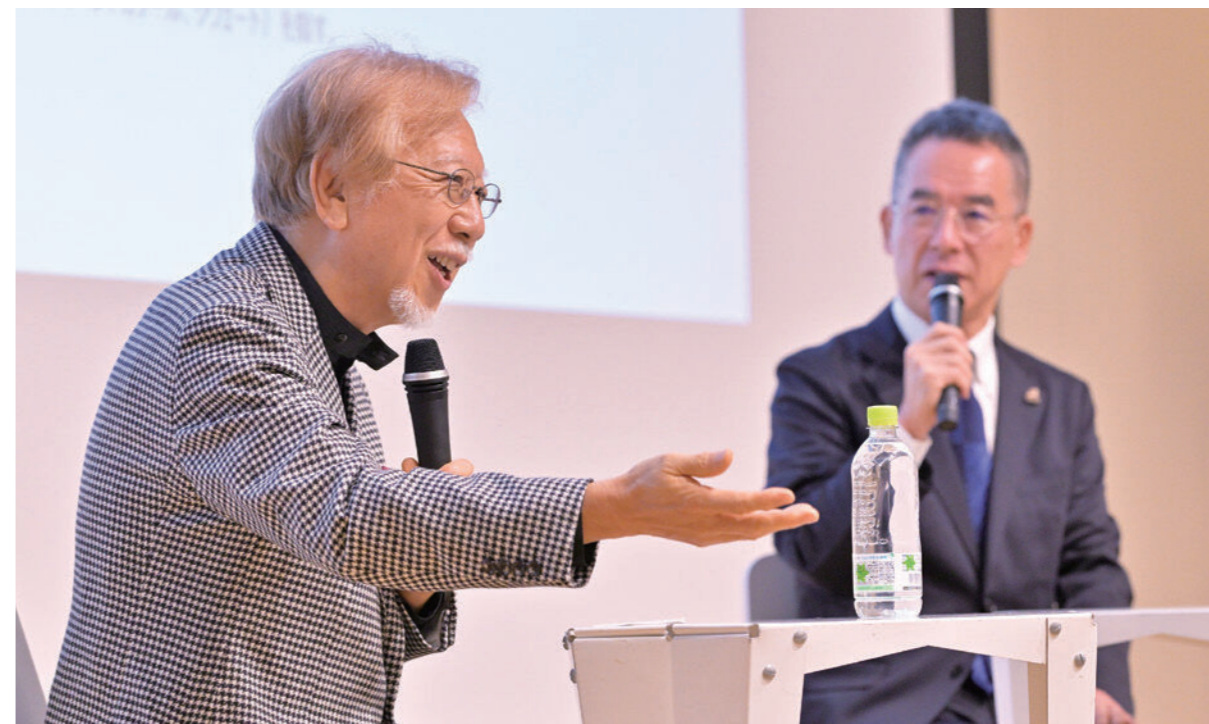


本講演では「フェリシモと神戸」「神戸ウォーターフロントでの実験的取組」の二点が紹介された。フェリシモは1965年大阪創業のダイレクトマーケティング企業で、1995年の震災の年に神戸へ移転、2021年にウォーターフロントの現在の拠点を整備し、2024年リニューアルオープンした神戸ポートタワーの運営も神戸市より受託している。東西の文化や自然、古き良きものと新しさが融合する神戸の魅力を評価し、「港はコンテンツでありメディア」と捉えて場づくりを進めてきた。具体的な実験として、リアルな集いと映像配信・受信の両方に対応する「フェリシモホール」、約1万9千点のパッケージを収蔵するチョコレートミュージアム、海から約25mの場所に併設したワイナリーやレストラン「シンクロ」等を展開。ポートタワーでは低層階や屋上テラスを活用し、長年関係のあるディック・ブルーナ（ミッフィー）との連携企画を実施した。当初はタワー単体の企画だったが、周辺のホテル・商業施設・交通事業者へ声掛けする中で賛同が広がり、観覧車装飾や館内演出、ミッフィーをテーマに

した客室・アフタヌーンティー、バスや鉄道案内表示とのコラボなど、約17拠点・約2か月にわたるプロモーションへ発展した。多くが協力ベースで実現した取組であり、一つのコンテンツが横浜マリナタワーや長崎ハウステンボス、函館金森倉庫など他都市にも波及しつつあることを紹介し、今後も開港5都市と共創しながら港の価値を高めていきたいと結んだ。

## ● 基調講演② 「開港都市の賑わいづくり」

イベント・ツーリズムプロデューサー 茶谷 幸治 / 神戸新開地・喜楽館 支配人 伊藤 史隆



茶谷氏と伊藤氏の対談では、まず伊藤氏が進行役として、地域や人への思いを学びたいと導入。茶谷氏は、賑わいづくり（集客）を長年手掛けてきた立場から、観光を取り巻く「大きな変化」と課題提起を行った。近畿運輸局等の宿泊統計を例に、訪日客の宿泊が東京・大阪・京都・北海道・福岡など一部地域に極端に集中し、他地域にお金が落ちにくい現状を指摘。国内旅行も上位地域に偏り、地域衰退につながりかねないとした。

課題の本質は、各地が細かな魅力説明に終始し、旅行者の意思決定を動かす「情動的で先導的な情報発信」が不足している点にあるとし、「死ぬまでに一度行きたい／食べたい」と思わせる大きな打ち出しが必要だと主張。成功例としてポジョレーヌーボーのような“仕掛け”を挙げ、神戸なら神戸牛や“ジャパニーズチャイニーズ”など、No.1を言い切って発信すべきだと述べた。また情報が拡散し均質化する「観光情報の液状化」により、都市の個性が埋没し（横浜の東京化、神戸の大阪化等）、従来型の丁寧なPRだけでは届

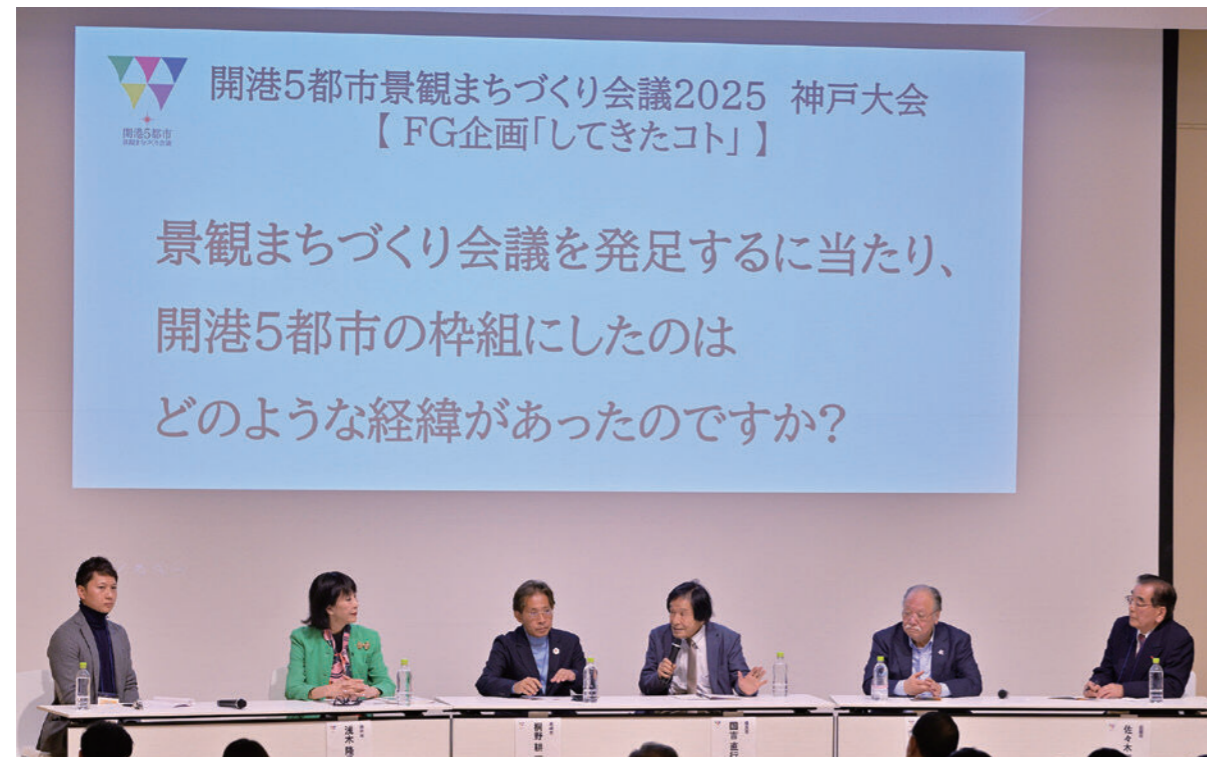
きにくいと分析。万博の来場者属性（近隣・高齢層偏重）も例に、課題を直視する必要性を共有した。

一方で、市民参加は住民の満足や誇りに重要だが、それ自体が集客増に直結するとは限らず、外から呼び込む戦略と切り分けて考えるべきだと整理。最後に、AIやVRの普及が“現地に行かなくても満足する”傾向を強め、液状化を加速させるため、より強い発信で対抗する必要があるとして締めくくった。



# 全体会議 I

## ●FG会議 I 「してきたコト」



開港5都市（函館・新潟・横浜・神戸・長崎）の景観まちづくり会議では、初日の基調講演後に「FG会議」を開催し、各都市で長年活動してきた“レジェンド”が登壇して来場者の質問に答える企画を初めて実施した。目的は、各都市が培ってきた景観・まちづくりの経験を共有し、大会テーマ「してきたコト、これからするコト」に沿って、今後の議論の土台をつくることにある。

登壇者は、函館市：佐々木馨氏、新潟市：本間龍生氏、横浜市：国吉直行氏、長崎市：桐野耕一氏、神戸市：浅木隆子氏。事前質問に加え、会場からはアプリ（Slido等）を用いてリアルタイムで質問を募集した。

主な議論として、会議発足の経緯は、1993年に神戸の景観形成市民団体が連絡協議会を設立し、記念事業として歴史や地形が近い開港都市へ呼びかけたことが起点で、1999年に「景観」から「まちづくり」へ領域を広げ規約を整備したことが示された。横浜は、港町としての共通課題や専門家交流が背景となり参加が円滑だったと説明。行政連携については、長崎は祭りや

大型イベント（居留地まつり等）を通じて行政と市民が関係性を築き、景観意識が高まったと述べ、新潟は参加当初の調整や予算確保の苦勞、組織内で会議認知を広げる課題が共有された。

継承面では、各都市とも若手不足を課題としつつ、函館は「函館タータン」など若手主導の取組を支えに継承を進め、長崎は祭り等に参加する中で若者が自然に担い手へ育つ流れを重視。FG発足の背景として、会議存続の危機感から若手参画を促す狙いが語られた。横浜側からは「まちづくりは常に未完」であり、生活者の魅力づくりと都市のアイデンティティ形成を継続的に更新していく必要性が示された。

今後に向けては、港町としての独自性を磨き、巻き込まれずにオリジナルをつくること、5都市の知見を外部へ発信・可視化すること（情報やグッズ等の展開案）、中間層が事務局機能を強化して世代・行政・市民をつなぐことが提案された。開催都市神戸からは、都心部だけでなく市域全体を体験する視察設計の必要性も挙げられ、会議を「継承と発展」へつなげる方針が確認された。

### 登壇者

函館



函館の歴史的風土を守る会 相談役  
佐々木 馨

新潟



新潟商人塾 代表  
本間 龍夫

横浜



馬車道商店街協同組合顧問、  
関内まちづくり振興会顧問  
国吉 直行

長崎



長崎市景観まちづくり連絡協議会会長、  
長崎居留地歴史まちづくり協議会  
桐野 耕一

神戸



北野・山本地区をまもり、  
そだてる会  
浅木 隆子



会場から質問をいただきました /



# ウェルカムパーティー

【日時】2025年11月29日(土)18:30~21:00(18:00受付開始)  
 【会場】THE SORAKUEN 1階 パークスイート  
 【参加者】128人



ウェルカムパーティーは、神戸を代表する日本庭園に佇む迎賓館THE SORAKUENで開催。各都市から約130名が参加した。パーティーは神戸大会実行委員会会長の主催者挨拶、神戸市副市長による開催都市代表挨拶と乾杯でスタート。各テーブルで名刺交換や近況報告、また今回新たな取り組みとして実施したトラベラーズシールの交換など都市を超えた交流が盛んに展開された。各都市から持ち寄られたお土産を参加者が次々と手に取って味わいながら感想を言い合う姿も見られ、交流のきっかけになった。続く各都市挨拶ではそれぞれのまちの魅力や活動報告に拍手が起こった。後半は「Feijao Preto」による迫力あるサンバパフォーマンスで会場の熱気が最高潮となり、最後は恒例の「ウェルカム港町」を合唱し一体感を深め、副会長による中締めで笑顔と余韻に包まれたまま閉会した。



■主催者挨拶 | 会長 曹英生



■開催都市挨拶・乾杯 | 神戸市副市長 小松恵一



■司会  
 高村昌幸  
 (神戸元町商店街連合会まちなみ委員会)  
 根津昌彦  
 (合資会社ゼンクリエイト)



■中締め | 副会長 松岡辰弥

# アトラクション



## 各都市からのお土産



# 1 景観ルールが具現化された街並みを見て歩いて、考える

集合 阪急岡本駅

【日時】2025年11月30日(日) 9:30~16:00  
【参加者】16名(+スタッフ12名)

徒歩 |

1 座学①  
旧居留地地区・岡本地区の  
ルールと街並みについて

【ねらいとした学び】  
建築物や広告物の景観ルール・協議に注力してきた神戸を代表する2地区の取り組み（ルールの決め方や伝え方、ルールの内容・意図と実際の街並みの見学）を通して、参加者自身のまちのこと・自分ゴトとして、景観まちづくりの視点を持ち帰っていただきました。

徒歩 |

2 岡本地区まち歩き

電車

3 昼食

徒歩 |

4 旧居留地地区まち歩き

徒歩 |

5 座学②  
景観に関するディスカッション

徒歩 |

解散 松岡ビル



① 阪急岡本駅に集合後、本土地域福祉センターに徒歩で移動。スタッフの紹介と当日の流れを説明しました。  
② まず、分科会で見学いただく旧居留地地区と岡本地区、2地区に定められているルールの概要と街並みの違いについて説明しました。そのあと岡本地区の景観に関するルールや、これまで行ってきた各種取り組みを説明しました。  
③ 質疑応答を行い、参加の皆さまからも活発に発言をいただきました。  
④ その後、岡本地区を全員でまち歩き。先ほど説明した事例を基に、実際の店舗や街並みを見ていただきました。(約1時間)  
その後、岡本駅から電車で神戸三宮駅に移動。松岡ビル会議室にて昼食です。  
昼食は穴子寿司、デリカテッセンのハム、ユーハイムのバームクーヘン、モロゾフのプリンなど、神戸を代表する

商品をそろえました。  
⑤ 昼食後、旧居留地地区の景観に関するルールや、これまで行ってきた各種取り組みを説明しました。  
⑥ 旧居留地地区のまち歩きに出発。当地区の景観ルールなどを説明しながら見ていただきました。併せて旧居留地地区に残る近代建築物もいくつか紹介しました。(約1時間)  
⑦ また、当日は道路を封鎖してイベントを行っていましたので、それも見ていただきました。  
⑧ 本分科会では、参加の皆さまから「行っている景観に対する取組」「取組を行う上での課題や問題点」「成功事例」などを事前アンケートにて予めお聞きしていました。  
皆さまからいただいたアンケートの内容を紹介し、質問があった点などは都度回答しました。  
⑨ その後、3班に分かれてグループワーク。参加者の地域での景観まち

づくりの悩みごとや成果を出し合い、旧居留地や岡本の取り組みをヒントに参加者のまちで応用や工夫をして実践できそう取り組みを考えました。最後に各グループからディスカッションした内容を発表いただき、分科会を終了しました。

**意見交換会まとめ**

- ◇まち歩きを通して感じたこと
  - ・岡本地区では行政、コンサル、地元連携が上手くいっている
  - ・景観を守るためにルールを徹底する大変さを感じた
  - ・街のプランディングについての考え方を協議会で統一できていることが大切と感じた
- ◇各都市の課題共有、今後実践したいこと
  - ・住民と事業者で景観に対する考え方にギャップがある
  - ・ルールを守らない人への対応をどうするのか

# 2 宗教と景観 ～多文化共生のまち神戸を歩く～

- 集合 | 生田神社
- 徒歩 | 1 トアロード・国営神戸オリーブ園跡  
神戸北野ホテル
- 徒歩 | 2 昼食  
神戸ムスリムモスク
- 徒歩 | 3 関西ユダヤ教会シナゴーク
- 徒歩 | 4 バグワン・マハビールスワミ・  
ジェイン寺院(ジャイナ教寺院)
- 徒歩 | 5 神戸ユダヤ共同体  
(神戸ジューコム)
- 徒歩 | 6 神戸ハリストス正教会  
(ロシア正教会)
- 徒歩 | 7 中華民国留日神戸華僑総会
- 解散 | 中華民国留日神戸華僑総会

【日時】2025年11月30日(日) 9:00~15:30  
【参加者】12人(+スタッフ9人)

【ねらいとした学び】  
開港都市、神戸の地で多様な宗教・文化が共存し景観として育まれてきた歴史を、街歩きと対話を通じて体験的に理解し、異文化共生の可能性を考えました。



①生田神社社会館にて趣旨説明の後、生田神社名誉宮司加藤隆久様から「国際港都・神戸をめぐる」というテーマで神戸の歴史について講演いただきました。その後トアロードの魅力、歴史についてオリーブアカデミー神戸代表の宇津誠二様より映像と一緒に講演いただきました。

②トアロード、国営神戸オリーブ園跡、神戸北野ホテルを見学いただきました。

③日本で最初のモスク(イスラム教の寺院・礼拝堂)といわれている神戸ムスリムモスク内を見学。初の日本人イマーム(宗教指導者)に就任された藤谷勇介様の講演を聞いていただきま

した。

④昼食は神戸ムスリムモスク内でハラフードを体験いただきました。

⑤午後から街歩きを再開し、関西ユダヤ教会シナゴークの外観を見学いただきました。

⑥普段は見学が難しい、バグワン・マハビールスワミ・ジェイン寺院(ジャイナ教寺院)を見学いただきました。

⑦神戸ユダヤ共同体(神戸ジューコム)跡地にて、神戸でユダヤ難民の受け入れを行い、亡命先が見つかるまで支援し共に生活した歴史を学びました。

⑧神戸ハリストス正教会(ロシア正教会)の内覧いただきました。

⑨中華民国留日神戸華僑総会にて、グループに分かれて街歩きを通して感じたこと・それぞれの都市で今後チャレンジしたいことをディスカッションしました。

**意見交換会まとめ**

◇街歩きを通して感じたこと

- ・街歩きの中で近い距離に様々な宗教施設が点在し共生していることに驚いた。
- ・様々な宗教の方のお話を聞くことで、それぞれの価値観を理解することができ対話することの大切さを感じた。

◇今後チャレンジしたいこと

- ・異文化、宗教について関心を深め共生できるまちづくりをしていきたい。

# 3 『“あの日”を歩き、“あす”を描く』 -記憶と景観で考える防災まちづくり-

集合 JR灘駅南口

【日時】2025年11月30日(日) 9:00~15:40

【参加者】17人(+スタッフ8人)

徒歩 |

1 灘浜まち歩き

【ねらいとした学び】

「阪神大震災の記憶」をたどる体験・街歩きを通じて、まちの景観や暮らしの中にある“語られない教訓”を掘り起こし、防災・減災・復興の視点を次世代や5都市と共有します。

徒歩 |

2 人と防災未来センター

タクシー |

3 昼食  
蓮池公会堂

徒歩 |

4 新長田まち歩き

徒歩 |

5 蓮池公会堂  
【ディスカッション】

徒歩 |

解散 蓮池公会堂



①JR灘駅南口にて集合し、ゼンクリエイト根津様アテンドによる「灘浜エリアまちあるき」を実施。震災以前から、震災直後、そして現在の復興状況まで、実際に見てもらいながらのまちあるきを実施しました。

②「人と防災未来センター」にて見学。阪神大震災の追体験から始まり、当時の貴重な資料や、復興にむけての取り組み等展示を見学。また、震災の記録だけでなく、減災・防災についても学んでもらった。

③昼食は、新長田駅北地区東部いえなみ委員会の方々に協力して頂いて、炊き出し(豚汁)と老祥記の豚まん、デザートにモロゾフのプリンを用意しました。また、昼食中には新長田の震災記録ムービーを上映した。

④昼食後には、「神戸トーク」として、新長田にて被災された方や、現在まちづくりに携わる方々のトーク

ショーを行い、午前中に「人と防災未来センター」にて見てきた事や感じた事を振り返りつつ、復興を続けている神戸(新長田)の今を参加者と共有した。

⑤「新長田まちあるき」を実施。実際に被災した場所の今を歩いてもらい、震災後にどのようにして復興してきたのか、そして、まちづくりをどのように行っているのかを、ゼンクリエイト根津様、新長田のまちあるきガイド今井様にアテンドしてもらった。途中には、新長田の震災の記録が残る「Wallギャラリー」も見てもらい、震災当時の記録を見てもらった。

⑥新長田「蓮池公会堂」にて、ディスカッション。【今日のまち歩きで感じた事・まちを見て感じた事】【これからすること・自分ができること】をテーマにディスカッション。

### 意見交換会まとめ

◇今日のまち歩きで感じた事・まちを見て感じた事

- ・災害に強いまちづくりには、「地域のコミュニティ」が大切だと改めて認識した。
- ・震災を経験し、復興し続けているまちを、その当時を知る人と一緒に歩くことで、話に聞いていた事や、資料で見た以上に当時の情景が伝わった。語り部の大切さにも気が付いた。
- ・未来に向けて「怖さ」ではなく「事実」として伝えていき、同時に「希望」も伝えていきたい。
- ・災害復興の難しさも感じた。かつてのまちなみに対する愛着をどこまでとりもどせるのか? その地域の歴史的過程を踏まえた地域づくりが必要だと感じた。また、きめ細かく合意形成が重要である。災害全てが経験。

◇これからすること・自分ができること

- ・震災後の記録(避難所運営や、復興の道のり等)を残し、伝承していく。
- ・その時の為に、学びあい、伝え合い、準備を続ける。
- ・地域等のコミュニティを強化し、防災・減災を話し合っていく。

# 4 『水と酒と癒しの旅路』癒しと文化を結ぶルート 魚崎郷～有馬温泉

集合 ラウンドワン三宮駅前店前

バス移動

1 小山本家酒造 灘浜福鶴蔵 見学

徒歩

2 魚崎郷まち歩き

徒歩

3 菊正宗酒造

徒歩

4 昼食 櫻正宗記念館・櫻宴

バス移動

5 有馬温泉まち歩き

徒歩

6 三ツ森炭酸泉店

徒歩

解散 三ツ森炭酸泉店

【日時】2025年11月30日(日) 9:30～16:00

【参加者】16人(+スタッフ8人)

【ねらいとした学び】

酒蔵のまちと温泉街、神戸の中でも和風建築が多いエリア。酒造りの「宮水」・温泉の「源泉」、六甲山の恩恵を受けた「清らかな水」が育んだ2つのまちの文化や歴史をたどり、まちづくりや暮らしにもその恩恵を活かし、守り続けている様子を見ていただきました。



ラウンドワン三宮駅前店前に集合後、バスに乗りし魚崎郷へ向かいました。

①灘浜福鶴蔵では元杜氏米治様から酒づくりの工程や道具について説明いただき工程の体験を1名の方にしていただきました。

②魚崎郷まち歩きは当委員会スタッフにて行い伝統的な酒造地域の景観を活かした景観形成のまちづくりを見学。建築・改築・屋外広告等については事前相談・協議・届出を行う協定を運用し、景観を地域で守っている状況を説明する。

③菊正宗酒造では増田康之様から酒づくりに欠かせない灘の宮水、厳選された米を使用した酒

づくり及び宮水を酒造会社と地域でどのように守り続けているかについてお話をいただきました。

④櫻正宗の酒造蔵を活かしたレストランで昼食。宮水の発見や酵母の研究等を行ってきた酒造会社のレストランで酒粕やお酒を活かした料理を堪能しました。

⑤魚崎郷から有馬へ移動。歴史情緒のある温泉地の景観を地域が主体的に保つために具体的な細かなルールを定めて運用している様子を説明していただきました。まち歩きで天神源泉、御所源泉、極楽源泉等を見学しました。

⑥炭酸泉が湧き出る炭酸泉公園

の傍らに昭和初期の純和風民家を移設した「三ツ森炭酸泉店」にてディスカッション。

### 意見交換会まとめ

- 今日のまち歩きで感じたこと
- ・魚崎での宮水に関する講話は地域と企業で水を守る取り組みに感銘を受けた。
  - ・日本三古湯の一つとして知られる有馬温泉の歴史や効能、その湯の街並みを住民が一体となって守る取り組みについて知りました。
  - これからするコト
  - ・魚崎の「宮水の郷」としての風情と、有馬の「日本最古の湯山」としての情緒を残しながら「歴史を凍結させるのではなく、時代に合わせて進化させる」をテーマとして取り組みをしていきたい。

# 5 まちとみち

- 集合 阪急神戸三宮駅東口前「サンキタ広場」
- 徒歩 |
- 1 サンキタ通り
- 徒歩 |
- 2 中央通り
- 徒歩 |
- 3 元町商店街
- 徒歩 |
- 4 昼食 エスタシオン・デ・神戸
- 徒歩 |
- 5 JR神戸駅
- 徒歩 |
- 6 こうべまちづくり会館
- 徒歩 |
- 解散 こうべまちづくり会館

【日時】2025年11月30日(日) 9:45~15:30  
 【参加者】19人(+スタッフ10人)

【ねらいとした学び】

都心周辺の「まち」の抱える課題を「みち」を使いこなすことでどう解決するか。  
 三宮～元町～神戸駅とまち歩きの中で神戸において実践している実例と現状の課題を見ながら、ディスカッションを通して考えました。



① 阪急神戸三宮駅「アモーレ広場」に集合。アモーレ広場の説明と趣旨説明を行いました。  
 ② 賑わいのある道路空間創出のため、全国で初めて歩行者利便増進道路（ほこみち）として国から指定された三宮中央通り（サンキタ通り）を見ていただきました。  
 ③ 三宮センター街1丁目、3階デッキ通路の活性化を目指して三宮センター街と神戸芸術工科大学の学生で作り上げた三フストリート（サンエフストリート）の解説を行い課題の共有も行いました。  
 ④ 都心の公共空間を活用した半地下屋外空間である三宮プラッツを見学いただきました。三宮プラッツの活用事業者である株式会社トーハクの市橋氏より解説いただきました。  
 ⑤ 都心の憩いや賑わいの創出を目的として設置されたKOBEパーク

レットの説明を行いました。  
 ⑥ 大丸神戸店前交差点に設置されたコンテナハウスmulti-BASE（マルチベース）を見学いただきました。  
 ⑦ 2024年に命名布告から150年を迎えた元町通りの商店街をまち歩き、見学いただきました。途中、老祥記の豚饅頭をおやつに用意しました。  
 ⑧ 昼食はエスタシオン・デ・神戸で神戸らしい洋食プレートを用意しました。  
 ⑨ 昼食後まち歩きを再開し、JR神戸駅に向かいました。蒸気機関車D51を見学いただき再整備が計画されている点や人流が少ないという課題について共有しました。  
 ⑩ こうべまちづくり会館にて三宮中央通り・元町商店街・神戸駅、ハーバーロード周辺のまち

歩きを通して感じたことについてディスカッションしました。また、神戸のまちが感じている課題を共有し、「どんなことがやれるか・やりたいか」について意見交換を行いました。

**意見交換会まとめ**

◇三宮・元町・神戸をまち歩きした感想や課題に対するアイデア

◇三宮中央通り

- ・週末にイベントがあると良いと感じた
- ・KOBEパークレットなど座れる場所が多い
- ・multiBASEやKOBEパークレットなど面白い取り組みなのでもっと周知してほしい

◇元町商店街

- ・パナーなど手入れが行き届いていた
- ・チェーン店が増えてきているが神戸らしさを感じるお店も多かった
- ・自転車がなかった

◇神戸駅、ハーバーロード

- ・元町商店街とハーバーロードをどうつなげるかが課題と感じた
- ・オフィスが多いが人通りが少ない印象
- ・D51前の車道をほこみちにする

# オプション企画

**1 神戸ナイトビューライナー** [日 時] 2025年11月30日(日)16:50~21:00  
 ~特別貸切ポートライナーでたのしむ神戸の夜景と海辺の美食~  
 [会 場] ポートライナー全線・ラヴィマーナ神戸  
 [参加者] 6人(全体参加者58名のうち5都市からの参加人数)

車内を消灯した夜景列車で、ジャズに包まれながら窓外の夜景を満喫しました。また、神戸空港島の“ラヴィマーナ神戸”で特別ディナーを堪能しました。



**2 南京町で海鮮中華を楽しむ** [日 時] 2025年11月30日(日)18:00~21:00  
 [会 場] 本格広東料理 雅苑酒家 南京町本店  
 [参加者] 21人

曹会長より神戸南京町の歴史についてのお話のあと、本格広東料理を楽しみました。美味しい料理、お酒とともに各都市の皆さんと懇親・交流がさらに深まりました。



# FG企画後編

**これからするコト** [日 時] 2025年11月30日(日)17:30~19:00  
 [会 場] KIITO(デザイン・クリエイティブセンター神戸)303号室  
 [参加者] 50人



FG企画前編で語ってもらった「してきたコト」を尊重しつつ開港5都市景観まちづくり会議を新しい時代に対応した活動へ転換するためのプロセスとして「これからするコト」について6班に分かれて議論しました。

- 開港5都市景観まちづくり会議の課題
- ①知名度不足=市民の方へ何をしている会なのか伝わっていない。
- ②参加者モチベーションの差=景観についての学びを深めたい人、同窓会気分など様々。
- ③持続性=毎年良い学びはあるが、その時だけ。
- 「これからするコト」
- ①・開港カレーなど毎年違うコンテンツを作成・5都市の日を作り周知していく・HPの情報を充実させる・SNSを活用する(例) #開港5都市を付けて持ち回りで情報発信するなど
- ②・自分たちが楽しめるテーマを盛り込んでいく
- ③・オンライン等で定期的に交流・テーマを細分化(商業、観光、防災など)した定例会を行う
- 「これからするコト」=常設組織を作る(統一の事務局など)**



# トラベラーズ シール一覧



南京町景観形成協議会  
曹英生



旧居留地連絡協議会  
松岡辰弥



魚崎郷まちなみ委員会  
山本真吾



有馬まちなみ景観委員会  
駿川ゆき



栄町通まちづくり委員会  
佐田野宏之



美しい街岡本協議会  
足立大輔



神戸元町商店街まちなみ委員会  
高村昌幸



トアロード地区まちづくり協議会  
宇津誠二、村上恵子



北野・山本地区をまもり、そだてる会  
浅木隆子



北野・山本地区をまもり、そだてる会  
小堀洋



旧居留地連絡協議会  
網本雅生



南京町景観形成協議会  
頃末灯留



南京町景観形成協議会  
曹祐仁



三宮中央通りまちづくり協議会  
永田泰資



# 行政会議

[日時] 2025年12月1日(月) 9:00~9:30  
[会場] ANCHOR KOBE ミーティングルーム1

5都市の行政担当者が集まり、①今大会の振り返り②次期開催都市の2点について意見交換や情報交換を行いました。

## 議題

- ・開催都市挨拶
- ・各都市挨拶
- ・意見交換、情報交換



# 代表者会議

[日時] 2025年12月1日(月) 10:00~10:30  
[会場] ANCHOR KOBE ミーティングルーム1

5都市の代表者が集まり、大会の振り返りを行い、①大会宣言、②次期開催都市の2点について決めました。

## 議題

- ・主催者挨拶
- ・各都市代表者挨拶
- ・議題



# 全体会議 II

[日時] 2025年12月1日(月) 11:00~12:00 (10:30開場)  
[会場] ANCHOR KOBE イベントスペース



分科会・オプション企画の報告と大会宣言発表、次期開催都市への大会旗引継ぎを通じて3日間の総括を行いました。

- 司会進行：曹祐仁（南京町景観形成協議会）
- 分科会報告
  - 分科会Ⅰ：足立大輔（美しい街岡本協議会）
  - 分科会Ⅱ：若山理蘭（北野・山本地区をまもり、そだてる会）
  - 分科会Ⅲ：白石克憲（新長田駅北地区東部いえなみ委員会）
  - 分科会Ⅳ：山本真吾（魚崎町まちなみ委員会）
  - 分科会Ⅴ：永田泰資（三宮中央通りまちづくり協議会）
- FG企画
  - 前編「してきたコト～若手からレジェンドに聞く開港5都市～」
  - 後編「これからするコト」
  - 植村一仁（コネクト神戸）
- オプション企画
  - 企画Ⅰ：夜景列車特別運行イベント  
御牧桜（神戸市都市局景観政策課）
  - 企画Ⅱ：南京町で海鮮中華を楽しむ  
頃末灯留（南京町景観形成協議会）
- 代表者会議報告  
岸田眞悟（神戸市都市局景観政策課）
- 大会宣言  
曹英生（開港5都市景観まちづくり会議神戸大会実行委員会 会長）
- 大会旗引継ぎ 神戸市→長崎市
- 次期開催都市代表者挨拶  
桐野耕一（長崎居留地まちづくり協議会会長）
- 主催者謝辞  
松岡辰弥（開港5都市景観まちづくり会議神戸大会実行委員会副会長）



大会旗引継ぎ



開港5都市締めで締めくくった

# Photo Album



函館 HAKODATE



新潟 NIIGATA



横浜 YOKOHAMA



長崎 NAGASAKI



神戸 KOBE





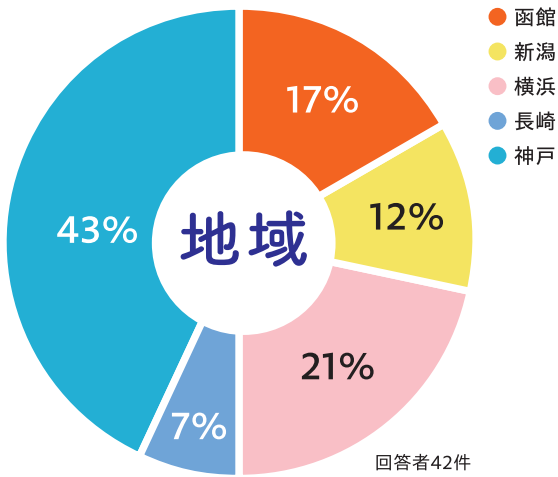
## 開港5都市景観まちづくり会議 2025 神戸大会 大会宣言

開港都市として互いに歴史を重ねてきた5つの都市、  
函館・新潟・横浜・神戸・長崎。  
ここ神戸の地に再び集い、これまで「してきたコト」を振り返り、  
そして未来に向け「これからするコト」を共に考えた。  
過去の歩みの中に刻まれた知恵と努力を「してきたコト」として受けとめ、  
そこから生まれた経験と絆を未来の力へとつなげるために、  
市民・企業・行政あるいは若い世代が一体となって議論を重ねた。  
そして、これまでの5都市の歴史を礎に、これからのまちの在り方を  
持続可能で多様性を尊重する「新たな景観まちづくり」として描き出すこと  
の重要性を確認した。  
折しも阪神・淡路大震災から30年。  
神戸は「再生」から「創造」へと歩みを進め、人と人、地域と地域を結ぶ  
力を見つめ直してきた。  
この姿勢は、自然災害や社会変容、人口減少といった現代の課題に向き合う  
すべての都市に求められるものである。  
わたしたちは、5都市それぞれの個性を尊重し、互いに学び、  
支え合いながら、地域の歴史・文化・人々の営みを未来へとつないでいく  
ことをここに誓い、宣言する。

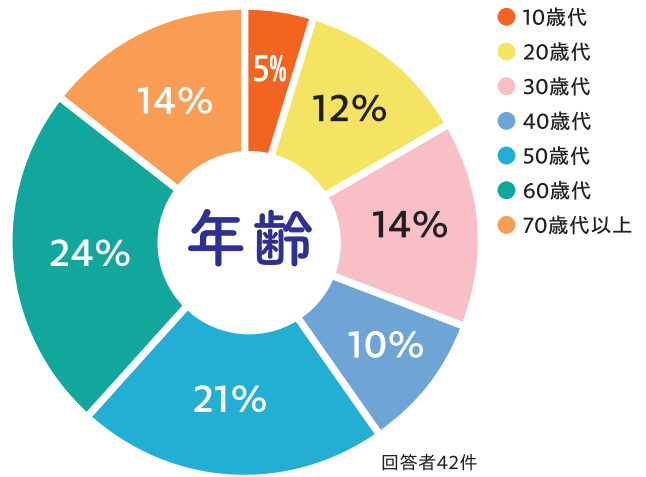
2025年12月1日  
開港5都市景観まちづくり会議2025 神戸大会  
参加者一同

# 参加者アンケート

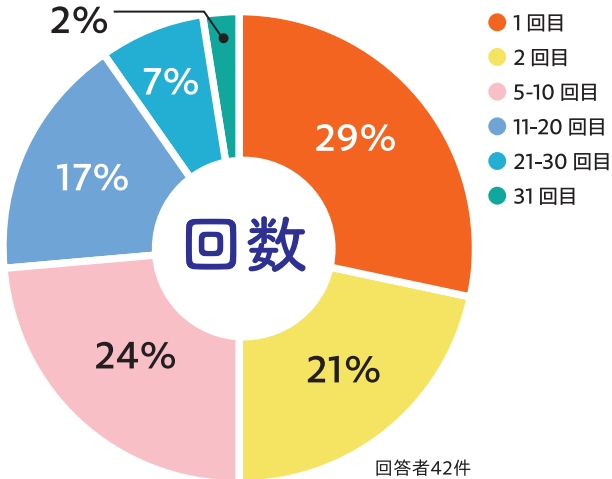
Q: 地域別の参加者数



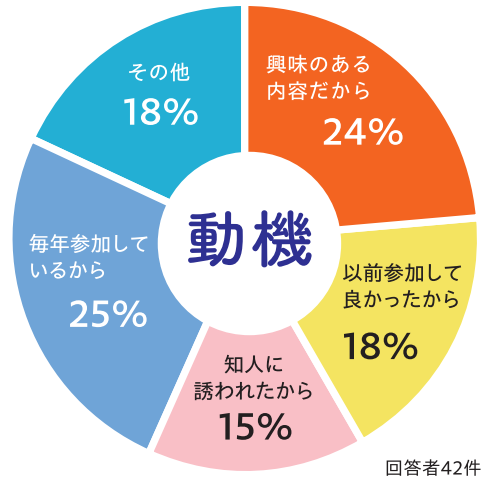
Q: 参加者の年齢構成



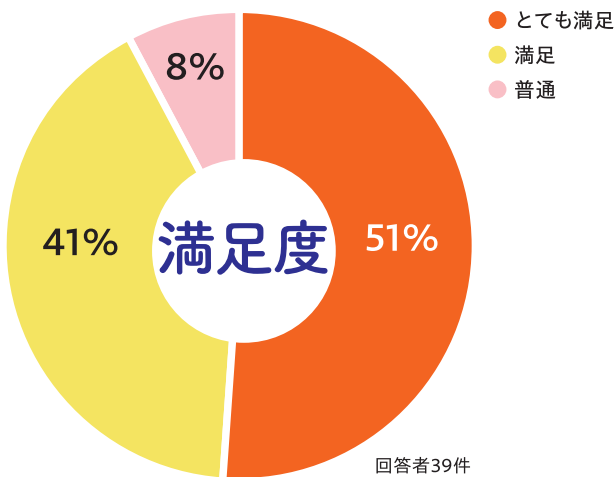
Q: これまでの参加回数



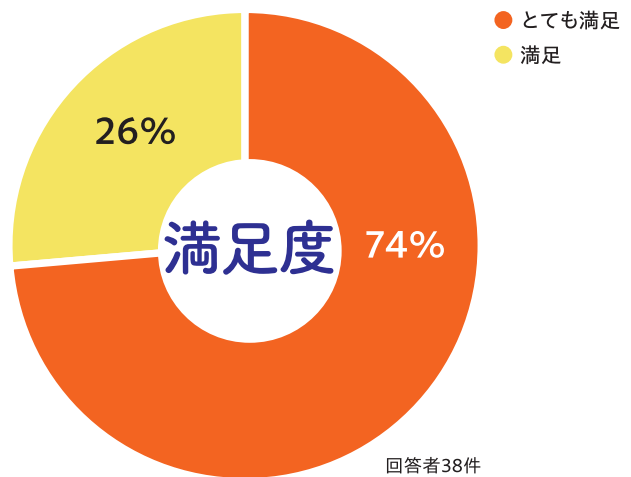
Q: 神戸大会への参加理由



Q: 全体会議Iの満足度



Q: 参加した分科会の満足度



## ●開港5都市景観まちづくり会議沿革

回	開催都市	テーマ
第1回	1993年 (平成5年) 8月	神戸大会 「坂のまちと旧居留地」
第2回	1994年 (平成6年) 10月	長崎大会 「市民主導のまちなみ・まちづくり」
第3回	1996年 (平成8年) 2月	新潟大会 「港といっしょになった都市、一体となった都市って何だろう」
第4回	1996年 (平成8年) 10月	函館大会 「北の開港都市に民の系譜をさぐる」
第5回	1997年 (平成9年) 10月	横浜大会 「開港都市の伝統・文化を活かした街づくり」
第6回	1999年 (平成11年) 10月	神戸大会 「開港都市の未来(あした)を探る」
第7回	2000年 (平成12年) 10月	長崎大会 「開港都市の遺伝子を伝える」
第8回	2001年 (平成13年) 8月	新潟大会 「水都にいがた夏!! ようこそ」
第9回	2002年 (平成14年) 10月	函館大会 「いいべや『港・まち並み』考えよう」
第10回	2004年 (平成16年) 3月	横浜大会 「150年の歴史とにぎわいづくり」
第11回	2005年 (平成17年) 10月	神戸大会 「開港都市のさらなる飛躍～明るく元気!!～」
第12回	2006年 (平成18年) 9月	長崎大会 「開港によってもたらされて文化と歴史の継承」
第13回	2007年 (平成19年) 11月9日 - 11日	新潟大会 「実りの秋にいがたへ来なせや」
第14回	2008年 (平成20年) 10月10日 - 12日	函館大会 「新・函館探訪 呼吸(いき)づくまを未来へ繋げ」
第15回	2009年 (平成21年) 9月11日 - 13日	横浜大会 「150年の贈り物～新たな旅立ちへ～」
第16回	2010年 (平成22年) 10月29日 - 31日	神戸大会 「共生のまちづくり 時間・空間・文化を超えて」
第17回	2011年 (平成23年) 11月4日 - 6日	長崎大会 「愛・絆・希望5港の祈り～長崎から～」
第18回	2012年 (平成24年) 10月26日 - 28日	新潟大会 「新潟の『らしさ』を求めて～過去・現在・未来へのつながり～」
第19回	2013年 (平成25年) 9月7日 - 9日	函館大会 「再発見!“ひと”と“まち”をつなぐもの～開港と食とラポー～」
第20回	2014年 (平成26年) 10月17日 - 19日	横浜大会 「開港5都市のみらい これからもココから」
第21回	2015年 (平成27年) 11月6日 - 7日	神戸大会 「開港都市からの発信～わたしたちのまちづくり～」
第22回	2016年 (平成28年) 11月4日 - 6日	長崎大会 「継承と発展～次の世代の景観まちづくり～」
第23回	2017年 (平成29年) 9月1日 - 3日	新潟大会 「語り合おう港への想い～歴史と未来がつながる開港150周年～」
第24回	2018年 (平成30年) 9月1日 - 3日	函館大会 「未来につなぐまちづくり 今、立ち止まって考える。」
第25回	2019年 (令和元年) 11月1日 - 11月3日	横浜大会 「見つけよう、広げよう!開港都市の可能性」
第26回	2020年 (令和2年) 10月2日 - 10月3日	神戸大会 「withコロナ時代の新しい景観まちづくり」
第27回	2021年 (令和3年) 11月20日 - 22日	長崎大会 「ポストコロナ時代の「港」を生かしたまちづくり～歴史・つながり・未来～」
第28回	2022年 (令和4年) 9月23日 - 25日	新潟大会 「温故知新 五港のキズナを未来へツナグ」
第29回	2023年 (令和5年) 9月9日 - 11日	函館大会 「原点・いま・そして、その先へ～5都市の対話による未来のデザイン～」
第30回	2024年 (令和6年) 11月23日 - 25日	横浜大会 「みらいへの架け橋～時代の横層で輝くまちとひと～」
第31回	2025年 (令和7年) 11月29日 - 12月1日	神戸大会 「してきたコト、これからするコト」

## ●開港5都市景観まちづくり会議規約

(名称)

第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」(以下「景観まちづくり会議」という)と称する。

(目的)

第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市(以下「開港5都市」という)の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切にまもり、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力あるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

(活動)

第3条 景観まちづくり会議は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- (1) 情報の交換
- (2) 共通の課題に対する調査研究
- (3) その他、前条の目的達成に必要な活動

(組織)

第4条 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを実践する市民団体等で構成する。

- 2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

(会議)

第5条 景観まちづくり会議の会議は、定期大会、代表者会議及びFuture Generation会議(以下「FG会議」という)とする。

- 2 定期大会は、原則として年1回会長が開催する。

- 3 代表者会議は、会長が必要に応じ開催することができる。

- 4 FG会議は、景観まちづくり会議の継承・発展のため、年間を通じて開催できるものとし、FG会議事務局が開催する。

(役員)

第6条 景観まちづくり会議に会長を置く。

- 2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等の代表者をもってこれに充てる。

- 3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。

- 4 役員の任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。

(事務局)

第7条 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等に置く。

- 2 FG会議の事務局は、FG会議で別途定める。

(規約の改正)

第8条 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。

付 則

本規約は、平成11年10月11日から施行する。

本規約は、令和3年11月22日から施行する。

## ●各都市参加団体一覧

### ■長崎市

NG会  
NPO法人長崎コンプラドール  
長崎市居留地歴史まちづくり協議会  
長崎都市・景観研究所  
長崎地域力研究会  
長崎東山手洋館活用プロジェクト  
東山手「地球館」  
長崎市

### ■新潟市

商人塾  
佐渡おけさ踊り隊  
NPO法人新潟海洋開発  
新潟学の会  
にいがたチューリップ部  
NPO法人新潟水辺の会  
沼垂ストーリー形成連絡会  
8BAN'リノベーション  
歴史都市新潟研究会  
新潟市

### ■函館市

五稜郭の文化価値を考える会  
NPO法人函館市青年サークル協議会  
函館市伝統的建造物群保存会  
函館タータン協会  
函館の歴史的風土を守る会  
NPO法人はこだて街なかプロジェクト  
函館市

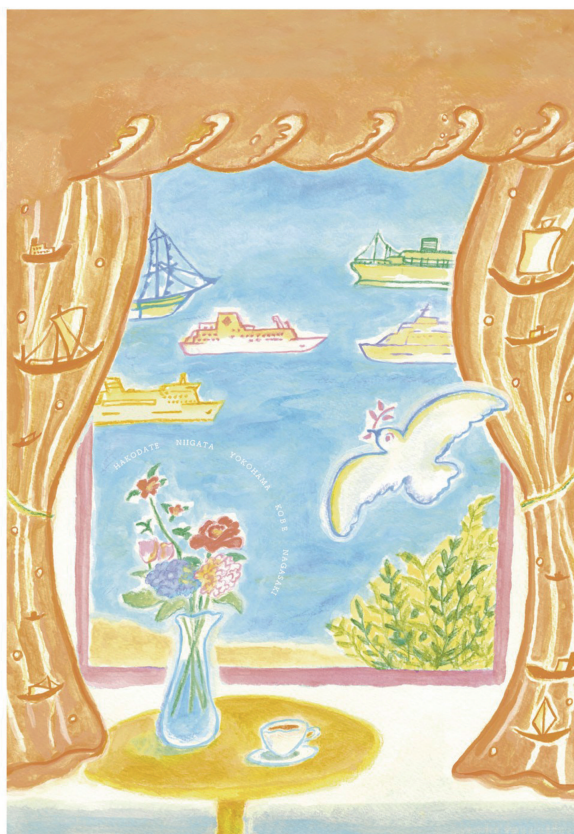
### ■横浜市

公益社団法人神奈川台場地域活性化協議会  
一般財団法人関内まちづくり振興会  
一般社団法人日本大通りエリアマネジメント協議会  
馬車道商店街協同組合  
ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川  
NPO法人まちづくりエージェンツSIDE BEACH CITY.  
横浜国立大学はまみらいプロジェクト  
NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ  
横浜今昔写真  
横浜商科大学  
ヨコハマまちトーク  
公益社団法人横浜歴史資産調査会  
横浜市

### ■神戸市

有馬まちなみ景観委員会  
魚崎郷まちなみ委員会  
美しい街岡本協議会  
北野・山本地区をまもり、そだてる会  
旧居留地連絡協議会  
株式会社神戸新聞事業社  
神戸元町商店街まちなみ委員会  
コネクト神戸  
コネクトKOBEコモンズ  
栄町通まちづくり委員会  
三宮中央通りまちづくり協議会  
新長田駅北地区東部いえなみ委員会  
トアロード地区まちづくり協議会  
株式会社地域問題研究所  
南京町景観形成協議会  
もとまちハーバー懇談会  
神戸市

※団体名は五十音順



### 開港5都市景観まちづくり会議 神戸大会メインビジュアル みしま あきひろ コンセプト

#### 【花のイメージ】

長崎 ツバキ  
函館 つつじ  
横浜 バラ  
神戸 アジサイ  
新潟 チューリップ

#### 【船のイメージ】

長崎 観光丸  
函館 津軽海峡フェリー  
横浜 氷川丸  
神戸 ルミナス神戸2  
新潟 佐渡汽船

※イメージの為、具体的にモチーフを曖昧にしています。

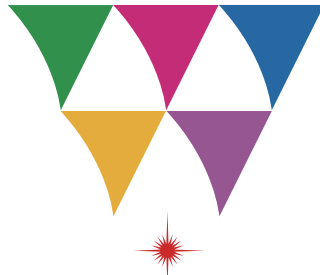
#### 【みなとのカーテン】

昔の港の行き交う船をなびかせて

#### 【カフェタイム】

リラクセスする時間から良いアイデアは生まれる。

港街でまちを想う人達  
それぞれの想いの船は交差して  
してきたこと  
これからすること  
海へ浮かべる。  
ふとついに窓をのぞく。  
港は創造の中で開かれて。  
それらは日常への景色に続いていく。  
まちのみらいを語りいながら。



開港5都市  
景観まちづくり会議

主 催：開港5都市景観まちづくり会議2025神戸大会実行委員会

後 援（順不同）：神戸市、神戸新聞社

開港5都市景観まちづくり会議2025神戸大会実行委員会

- 北野・山本地区をまもり、そだてる会 ●旧居留地連絡協議会 ●美しい街岡本協議会
- 南京町景観形成協議会 ●トアロード地区まちづくり協議会 ●栄町通まちづくり委員会
- 新長田駅北地区東部いえなみ委員会 ●魚崎郷まちなみ委員会 ●三宮中央通りまちづくり協議会
- 神戸元町商店街まちなみ委員会 ●有馬まちなみ景観委員会 ●もとまちハーバー懇談会 ●コネクト神戸